沖縄県小児医療専門三団体　其の二

浜端　宏英

昭和61年（1986年）、日本小児科学会、日本小児保健協会、日本小児科医会の三者が参加して日本小児科連絡協議会が結成され、三者協とも呼ばれていました。この三者に日本小児期外科系関連学会協議会を構成団体に加え、新たに四者協として従来の「日本小児科連絡協議会」から「日本小児連絡協議会」に名称が一文字だけ減り、変更されています。四者協では三者協と同じく定期的に会合を開き情報交換を行うとともに、子どもにかかわる諸問題について協議しています。

三者協時代のそれぞれの下部組織である県内の三団体について、その成り立ちと歴史を調べて、書き留めたのが「小児医療専門三団体」（沖縄の小児保健. 第 32 号:87－89:2005）でした。その拙文は沖縄県小児保健協会と沖縄県小児科医会のホームページから読むことができます。

今回、平成 16 年以降の県内「小児医療専門三団体」について書き留めてみました。

【沖縄小児科学会】

沖縄小児科学会は以前、日本小児科学会沖縄地方会の名称で、日本小児科学会の下部組織でした。法人改革により、平成 24 年日本小児科学会は公益社団法人に移行しました。それに伴い、日本小児科学会沖縄地方会は平成 23 年 9 月の総会を経て「沖縄小児科学会」へ名称変更となり、日本小児科学会とは独立した任意団体になっています。会長は選挙での選出ですが、これまで琉大小児科教授が務めています。事務局は琉球大学大学院医学研究科、育成医学講座（小児科医局）が担っています。

平成 18 年に南部医療センター・子ども医療センターが開設されたことにより、研修医が増えたことも影響して年 2 回 3 月と 9 月に行われていた例会は演題数が増加しました。そのため、平成 25 年からは 12 月に半日だけ例会を追加して年 3 回の開催となっています。3 回開催では事務局である琉球大学小児科医局の負担を減らすために、12 月の例会は南部医療センター・こども医療センターが事務局を務めています。平成 28 年 3 月太田孝男会長が定年退職されましたが、次の琉球大学小児科教授がなかなか決まらず、しばらくは会長不在となっています。琉球大学小児科教授就任を待って会長選挙が行われることになります。平成 28 年現在、会員数は 298 名、幹事 17 名、監事 2 名。

【沖縄県小児保健協会】

沖縄県小児保健協会は 7 代目会長玉那覇榮一先生が就任されていた時期に大きな出来事が二つありました。一つは平成 20 年 12 月に完成した沖縄小児保健センターです。このセンター以前の協会は東町にあるビルの一室を借りて事務所としていました。その当時、協会は会議室の確保だけで大変でした。また、会議に参加する私たちも駐車場を探すだけでも一苦労でした。センター会館の設立は協会当初から熱望されていたようで、そのため会長以下、理事や委員が無報酬で働き、かつ事務局でも鉛筆 1 本無駄にしないなど徹底した節約が行われていました。協会を設立された先人たちの熱い思いが実り、35 年目にセンターを作り上げたのです。沖縄小児保健センターは南風原町の医療センター街、県医師会館、県薬剤師会館、

県看護協会館、県歯科医師会館の中心に位置し、駐車場は独自に 60 台確保していますが、他の医療機関会館同士で融通しながら運営されています。
　もう一つの大きな出来事は公益社団法人への移行です。沖縄県小児保健協会は昭和 56 年に任意団体から社団法人となりました。さらに平成 24 年には公益社団法人に移行しました。日本小児保健協会も同じ年に公益法人に移行しています。地方の組織で法人化されているのは沖縄県だけです。
　平成 27 年から 8 代目会長として宮城雅也先生が就任しました。小児保健協会は「はしかゼロプロジェクト」の事務局だけでなく、センターが設立されたおかげで、多くの活動を新たに始めています。「特別研究委員会」ではこれまでの沖縄県の健診データを分析・検討して学会発表を行っています。「子どもの生活習慣対策委員会」では沖縄県の長寿復活のために多職種が参加して息の長い活動を開始しています。その他「子どもの VPD 研究会」などを立ち上げ、乳幼児健診だけでなく沖縄の子どもたちの健康のための活動が広がっていくことでしょう。平成 27 年度現在会員数 282 名、その内医師 109 名、平成 28 年度理事 21 名、監事 2 名。

【沖縄県小児科医会】
　10 代目会長の野原薫先生は平成 12 年から 6 年間、11 代目会長の具志一男先生は平成 18 年から 8 年間、そして現在の呉屋良信会長は 12 代目で平成 26 年から会長を務めています。10 代目野原会長は前任 9 代目大宜見義夫会長が体調を崩されたことで、急きょ医会会長を務めることになりました。
当時沖縄県医師会理事として学校医、小児保健担当をされており、大変お忙しい中、平成 13 年に発足した沖縄県はしかゼロプロジェクト発足とその基礎を作り上げ、また、麻しん予防接種の本島内相互乗り入れを実現させるなどを行いました。また医会研修会を平成 16 年から 2 か月に 1 回の開催に増やし、平成 17 年には九州医学会の県内開催を成功させました。11 代目具志一男先生は沖縄県の小児科医会会長だけでなく日本小児科医会理事としても現在でも活躍されています。専門医点数の厳格化のため医会研修会は演題を 2 演題以上とするなど変更を行い、研修会の充実を推し進めました。医会報を PDF 化するだけでなく全国の小児科医会の会報誌をCDにして会員に配りました。 これらの会報誌は現在医会 HP で読むことが出来ます。平成 25 年には日本保育保健協議会九州ブロック大会が沖縄県で開催され、その会長として尽力されました。歯科医師会とも連携を行いました。平成 26 年には九州医学会の県内開催を成功させました。12 代目現在の会長呉屋良信先生はクリニック移転後間もない時期で、かつ南部地区医師会理事でしたが、医会会長を引き受けていただきました。最大の仕事であった、医会 50 周年記念式典・祝賀会を成功させました。呉屋会長のわんぱくクリニックは院長の呉屋先生が小児科医会会長、副院長の當間隆也先生が沖縄県小児保健協会の副会長であり、沖縄県の小児医療・保健を牽引するクリニックとなっています。医会の仕事は年々増加してきており、そのため呉屋会長就任時から副会長を 3 名体制に変更しています。
　体調を崩して道半ばで会長職を降りた 9 代目大宜見義夫会長はその後回復され、平成 20 年日本小児心身医学会、平成 21 年日本小児東洋医学会の学術集会を県内で開催しています。
　日本小児科医会は平成 23 年に一般社団法人 日本小児科医会に移行後、平成

27 年に現在の公益社団法人に再度移行しています。沖縄県小児科医会は任意団体で、平成 27 年 11 月現在、会員数は 117 名、理事 15 名、監事 2 名。

追記：

沖縄県小児科医会ホームページ（HP）

医会HPは平成 24 年 2 月開設しました。HPの管理者は国吉賢先生です。国吉先生は自院HPも大変充実しており、その知識と経験を生かしてHPを立ち上げていただきました。HP開設時、国吉先生は医会理事でしたが、その後、都合により理事を辞退しました。しかし、理事を辞めた後もHP担当として管理を行ってもらっています。HPでお勧めは小児科に関する研修会の案内です。県内最新の小児科関連研修会情報が掲載されています。会員専用ですが医会研修会の資料が充実しており、県の医会報だけでなく県外の医会報も大変充実しています。また、総会や新年会などの写真も掲載されています。各県の小児科医会報が見られるのは当会HPだけと思いますが、これには具志一男先生が県内外の会報誌を PDF にしているために可能となっています。HPはレイアウトも見やすく、大変充実しています。小児科の研修会などで困ったときはHPを是非ご覧ください。

メーリング・リスト（ML）

県内小児科医のMLを立ち上げたのは町田孝先生です。町田孝先生は平成 13 年に発足した「沖縄県はしかゼロプロジェクト」のサポートとして、平成 13 年に「全国小児科医はしかゼロML」を立ち上げ、管理人となりました。このMLには沖縄県だけでなく日本の麻しん（はしか）ゼロを願う全国の小児科医だけでなく、国立感染研の多屋馨子先生、砂川富正先生、中島一敏先生も参加し活発な議論が行われました。はしかゼロを願う全国の多くの仲間がこのMLを通して得た知識と行動は「はしかゼロ」の原動力となり、このMLがなければ、こんなにも早く麻しん排除出来なかったことでしょう。町田孝先生は日本の麻しん排除に尽力した影の功労者です。町田先生は「全国小児科医はしかゼロML」後、すぐに「沖縄県はしかゼロML」を立ち上げ、その後県内の小児科医が自由に発言できる「沖縄県小児科ワイワイトークML」を立ち上げました。残念ながら、町田孝先生は平成 26 年 4 月、大好きな岩手県での生活にあこがれて、現在岩手県雫石町に移り住んでいます。

私は町田孝先生に教えてもらい、「沖縄県小児科医会ML」を立ち上げました。このMLに参加している会員は「沖縄県小児科ワイワイトークML」にも参加してもらいました。通常の話題は「沖縄県小児科ワイワイトークML」で行い、「沖縄県小児科医会ML」は医会会員だけの情報ツールとしています。

また、具志会長の時代に「医会理事ML」を立ち上げました。2 ヶ月に 1 回理事会を開催していますが、検討する問題が多くなっており、このMLを活用して情報の共有や、意見交換をタイムリーに行っています。

現在、ITを活用せずに発展は難しいかもしれません。幸い沖縄県小児科医会は町田孝先生、国吉賢先生らのおかげでIT社会に乗り遅れていないようです。しかし、これから沖縄県小児科医会が生き延びるためには、ITに強い多くの会員の参加が欠かせません。ITに支配されず、ITを使いこなしながら、何とか医会も発展出来ればと願っています。